

九電“コンプライアンスカード”不携帯は約束違反 佐賀県は問題をうやむやにせず、積極的に公開を！

2017年8月10日

佐賀県知事 山口祥義 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

6年前の古川康前佐賀県知事に端を発した“九電やらせメール事件”を踏まえ、山口祥義佐賀県知事は2年前の就任直後に瓜生道明社長と面談して九電が「ウソをつかない」ことを約束させました。今年4月19日、知事と面談した瓜生社長は「コンプライアンスとは法令順守だけでなく、社会に迷惑をかけないことだ。コンプライアンスカードを全社員に常時携帯させている」と知事に説明しました。この面談を踏まえて、“九電は変わった”“もうウソをつかない”ことを知事は確認したとし、5日後の24日、再稼働に同意しました。

7月26日、私達は九州電力本店と交渉の場を持ちました。交渉の冒頭に「コンプライアンスカードを携帯していると思いますが、見せてください」と求めたところ、対応したエネルギー広報グループの課長ら5人は全員カードを携帯していませんでした。内容を問うても、誰も答えられませんでした。

カードには「あなたや上司、同僚の判断や行動は自分の良心に反していませんか？」「家族や友人に胸を張って見せられますか？」「地域社会との信頼関係を損ないませんか？」などと5項目が記載されています。命を傷つけ暮らしを根こそぎ奪いかねない原発に不安を持つ市民に説明する際にこそ一番に顧みてほしい内容です。しかし、社長指示はただの口約束だったのです。

8月3日の朝日新聞には「九電から報告があり、翌日、山口康郎佐賀県県民環境部長が口頭で改善を求めた」とありました。そこで、県原子力安全対策課に電話して詳細を確認したところ――

- ・九電から電話で報告があった。事実確認を確認したいということで、県庁に呼んだ。
- ・九州電力執行役員であり立地コミュニケーション本部の田代幸英本部長ら数人が県庁に来た。
- ・佐賀県環境部長は口頭で「瓜生社長が約束していたコンプライアンスカードを実際持っていなかったことは遺憾であり重く受け止めている。今後二度とこういうことがないように改善策を検討して、報告を求めたい」と伝えた。

九電本部長が県部長に直接報告に来たということは、重大な問題だと認識したということだと思います。

しかし、また、疑問が湧きました。私達が朝日新聞から取材を受けたのが7月31日で、記事になったのは県が九電を呼んだ27日から1週間後の8月3日のことです。それまで、県はこの経過について、記者発表等で公表しませんでした。記事にならなければ、表沙汰にならなかったのです。

九電社長と知事との約束は、県民との約束でもあります。その約束がまたも破られたわけですから、九電を厳しく叱責し、このことをいち早く県民に対しても知らせるべきではなかったでしょうか。県民に寄り添って、九電や国と対峙するのが、知事に求められる姿勢ではないでしょうか。

残念ながら、やらせメール事件で明らかになった、佐賀県と九州電力との“もたれあい”の関係が今も続いているように感じます。私達の九電に対する不信は、県民の理解もないままに再稼働同意に突進した知事に対する不信でもあることを、知事は重く受け止めるべきだと思います。

今回のことをうやむやにせず、今後「ウソをつかない、つかせない」よう望みます。以下について、1週間以内にご回答ください。

<質問項目>

- (1)この件について、九電から佐賀県への最初の連絡は、いつ、誰から、どのような内容だったか。
- (2)7月27日に県庁を訪ねた九電関係者と県側の対応者の氏名と役職。
- (3)九電からの報告内容と、県から九電へ伝えた内容
- (4)九電に求めた報告の期限はいつか。また、いつまでを想定しているか。
- (5)県として、この経過について、なぜ自ら公表しなかったのか。
- (6)後日、九電から改善策についての報告があった時に、それを公表してください。

【参考資料】

■4月19日に行われた山口祥義佐賀県知事と瓜生道明九州電力社長との面談記録

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00354806/index.html>

【瓜生社長】

最初に、当社が信頼向上に向けて、従来から取り組んで、今も継続して実施している内容をちょっと御紹介させていただきます。

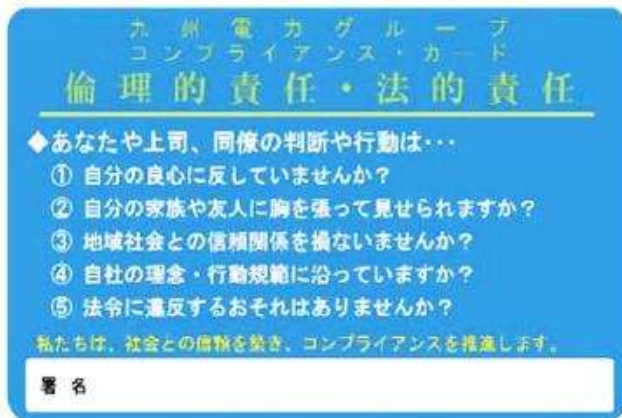
まず、コンプライアンス。コンプライアンスは、法令遵守だけではなくて社会に迷惑をかけないというのがコンプライアンスでございますけれども、コンプライアンスを進めていくうえで、コンプライアンス行動指針を策定して、それを教育・研修しており、教育・研修の場合も、単に座学で研修するのではなくて、ワークショップという形で、過去に起こった事例だとか、私どもが起こした事例、将来起こるかもしれない事例、それを原因だとか対策、何が悪かったのかというところを、しっかり認識してもらおう。それをワークショップ形式で教育をやって腹落ちしてもらおうようにしています。

さらには、コンプライアンスカードというものを常時携帯してもらおうようにしております、このコンプライアンスカードには、行動の判断基準というのを書いてますけれども、これは単に法令を守れと言っているわけではないんだ、我々は社会に迷惑をかけないんだ、ということを記載して、このコンプライアンスカードを常時携帯してもらっており、その裏には、もし誰かが違反するような行為をした時には、必ず直ぐ通報できるような、そういう場所も明記しており、そこに社外相談窓口、社内外ですけれども、社内外も含めて相談できるような窓口を記載しております。

これは、全社員に持っていていただいているところでございます。

■九州電力コンプライアンスカード

＜2016年度の九電CSR報告書より＞



九州電力グループ コンプライアンス・カード 倫理的責任・法的責任

◆あなたや上司、同僚の判断や行動は...

- ①自分の良心に反していませんか？
- ②自分の家族や友人に胸を張って見せられますか？
- ③地域社会との信頼関係を損ないませんか？
- ④自社の理念・行動規範に沿っていますか？
- ⑤法令に違反するおそれはありませんか？

私たちは、社会との信頼を築き、コンプライアンスを推進します。

■7月26日 九州電力本店交渉時の報告(抜粋)

6年前の“やらせメール事件”を踏まえ、山口祥義佐賀県知事は2年前の就任直後に瓜生道明社長と面談して九電が「ウソをつかない」ことを約束させました。再稼働知事同意直前の4月19日、瓜生九電社長は「コンプライアンスとは法令順守だけでなく、社会に迷惑をかけないことだ。コンプライアンスカードを全社員に常時携帯させている」と知事に説明しました。知事は「九電は“変わった”と確認」したそうです。

そこで、私たちは交渉の冒頭、「コンプライアンスカードを携帯していると思いますが、見せてください」と求めました。対応した九電エネルギー広報グループ課長ら5人は、お互い顔を見合わせました。

「...今は持っていません...」

なんと、誰も持っていなかったのです。

「財布にいれてあるが、今は持っていない」などの言い訳もありました。

「では、どんなことが書いてあるか、概要を言ってもらえますか？」

「...」

5人はまた顔を見合わすばかりで、誰も内容を言えませんでした。

社長の知事との約束が「口約束」で、いとも簡単に破られていたのです。私達は呆れかえりました。

知事の向こうに住民がいます。九電の住民軽視の姿勢がまた一つ露わになりました。